

令和7年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

( 中間 **最終** )

函城中学校区 校番 14 学校名 呉市立函城中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
確かな学力の向上 (貫)	学力の向上	基礎・基本の徹底	<b>【学力調査】</b> ○各調査において、正答率30%未満の生徒の割合は次のとおりであった[単位%, 目標値:5%]。 全国学力(3年) 国11.9 数16.7 標準学力(2年) 国0.0 社11.4 数15.9 理18.2 英20.0 標準学力(1年) 国4.5 社18.2 数2.3 理6.8 英25.0 ・教科や学年, 調査の種類によって割合が大きく異なる。難易度との相関も考えられる。	○引き続き、キュビナの効果的な活用等により、個別最適な学びを推進し、基礎学力の定着を図る。 ○授業の中で「めあて」「説明」「理解確認」「理解深化」「振り返り」カードを提示することにより、生徒の学習に関するメタ認知を向上させ、学力の定着を図る。
		思考力・判断力・表現力の向上	<b>【生徒アンケート】</b> ○家庭学習を目標時間(1年80分～, 2年100分～, 3年120分～)以上行っている生徒の割合は、70.0% [目標値:75%]であった。 1年:60.9%, 2年62.7%, 3年88.4% ・1年生の肯定的回答率が約19ポイント減少しており、取組の強化が必要である。	○目標をもち、計画的に家庭学習を進め、学習時間を確保できるよう、学習方法・内容について継続して指導する。 ○キュビナをはじめ、タブレット端末を積極的に活用して学習課題を提示し、自分で学習を調節しながら理解を深めることができるようにする。
豊かな心の育成 (貫)	自尊感情の向上	基礎・基本の徹底	<b>【生徒アンケート】</b> ○「授業で課題に対し、主体的に考えて表現する活動に取り組んでいる」生徒の割合は、90.0%[目標値:90%]であった。 1年:91.3%, 2年82.4%, 3年97.7% ・2年生の肯定的回答率が依然として低く、授業改善を進めていく必要がある。	○ICTの効果的な活用や理解深化問題への挑戦などにより、引き続き考える授業づくりを進め、考えたことを表現する場面を意図的に設定する。 ○「授業参観ウィーク」(相互参観)の中で、発問や指導方法の工夫・改善を進め、授業力を向上させる。
		自他を大切に認め合う生徒の育成【いじめの防止】	<b>【学力調査】</b> ○各調査において、全国平均を3.0ポイント以上上回る生徒の割合は次のとおりであった[単位%, 目標値:60%]。 全国学力(3年) 国50.0 数50.0 標準学力(2年) 国63.6 社29.5 数61.4 理47.7 英37.8 標準学力(1年) 国65.9 社31.8 数54.5 理56.8 英36.4 ・「基礎・基本の徹底」で述べたことと同様、教科や学年, 調査の種類によって割合が大きく異なる。難易度との相関も考えられる。	○引き続き、「教えて考えさせる授業」を柱に、考える授業づくりを推進し、学校全体の授業力を向上させる。 ○授業で各教科の見方・考え方を働かせ、根拠を示し説明する場を設定し、表現力をつける取組(OUTPUTへの挑戦)を進める。
豊かな心の育成 (貫)	自尊感情の向上	自他を大切に認め合う生徒の育成【いじめの防止】	<b>【生徒アンケート】</b> ○「学校に行くのが楽しい」と思っている生徒の割合は、85.0%[目標値:90%]であった。 1年:76.1%, 2年:84.3%, 3年:95.3% ・1年生の肯定的回答率が約16ポイント減少、2年生もほぼ横ばいであり、取組の強化が必要である。	○生徒自身が課題を見付け、解決に向けて努力し、発展させていく取組を充実する。 ○新生徒会執行部を中心に、生徒の主体的で自治的な活動をさらに推進する。
		自他を大切に認め合う生徒の育成【いじめの防止】	○「自分にはよいところがある」と思っている生徒の割合は、77.1%[目標値:80%]であった。 1年:80.4%, 2年:68.6%, 3年:83.7% ・2年生の肯定的回答率が引き続き低いことが懸念される。	○生徒指導の4つの視点を基盤に、自己肯定感・有用感を高める。 ○ボランティア活動の機会を意図的に増やす。マイスター制度を生徒主体のものにする。
豊かな心の育成 (貫)	自尊感情の向上	自他を大切に認め合う生徒の育成【いじめの防止】	○「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と思っている生徒の割合は、100.0%[目標値:100%]であった。 1年:100%, 2年:100%, 3年:100% ・引き続き、学校全体でよりよい学級・学年集団づくりを進めていく必要がある。	○積極的な肯定的評価・発信を行い、認め合う集団づくりを進める。 ○いじめ撲滅キャンペーンの意図を共有して取組を充実させ、いじめ撲滅の機運を高める。

豊かな心の育成	<p>① 自尊感情の向上</p>	主体的に行動できる生徒の育成	<p>【生徒アンケート】 ○「将来の夢や目標の実現に向けて努力をしている」生徒の割合は、87.9%[目標値85%]であった。 1年:84.8%, 2年86.3%, 3年93.0% ・1年生の肯定的回答率が約8ポイント減少、2年生も横ばいであり、キャリア教育を充実させていく必要がある。</p>	<p>○アンケート等に基づく教育相談を継続し、生徒の援助希求能力を高める。 ○「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」の育成を目標に組織的に指導する。</p>
*  健全な体の育成	<p>② 生きる力の向上</p>	体力の向上	<p>【生徒アンケート】 ○「運動やスポーツが好き」と肯定的に回答している生徒の割合は、84.3%[目標値90%]であった。 1年:84.8%, 2年76.5%, 3年93.0% ・体育の授業や部活動、その他の教育活動でも、主体的に体を動かす工夫を取り入れる必要がある。</p>	<p>○体育の授業で楽しく体を動かすことができるルールづくりを進める。 ○部活動顧問の意識や指導技術を向上させ、体力向上につなげる。 ○保体委員会のボール貸出等、昼休憩のグラウンドでの活動の奨励を継続する。</p>
		生活リズムの確立	<p>【生徒・保護者アンケート】 ○「時間の三点固定を意識して行動し、生活リズムを確立できている」の肯定的回答率は、生徒70.0%[目標値:80%], 保護者59.7%[目標値:65%]であった。 生徒 1年:73.9%, 2年68.6%, 3年67.4% 保護者 1年:51.1%, 2年:61.4%, 3年:67.4% ・特に1年生で保護者アンケートの肯定的回答率との乖離が大きく、より丁寧な実態把握が必要である。  ○「携帯・スマホ等の通信機器を、PTA宣言とおり、21時以降は保護者が管理している」の肯定的回答率は、生徒63.6%[目標値:70%], 保護者54.5%[目標値:65%]であった。 生徒 1年:65.2%, 2年64.7%, 3年60.5% 保護者 1年:53.2%, 2年:63.6%, 3年:46.5% ・目標値には達していないが、1年生の肯定的回答率が約10ポイント上昇しており、取組の成果を感じる。</p>	<p>○目標をもって計画的に家庭学習を進め、学習時間を確保することができるよう、学習方法や学習内容について継続して指導する。 ○適切な睡眠や生活リズムの確立についても継続して指導する。  ○「時間の三点固定」と「PTA宣言」の取組をセットで発信し、各家庭でも呼び掛けてもらいながら、生徒が自分の生活を自分でコントロールする力を向上させる。 ○情報モラル教育と合わせ、スマホ等の安全・適切な使い方についても継続して指導する。</p>
		「自分の命は自分で守る」力の育成	<p>【生徒アンケート】 ○「いつも『自分の命は自分で守る』ことを意識して生活している」生徒の割合は、92.9%[目標値:95%]であった。 1年:93.5%, 2年88.2%, 3年97.7% ・防災教育の取組が上半期に集中しているため、全学年で肯定的回答率が減少している。</p>	<p>○当事者意識をもたせる防災教育に系統的に取り組み、年間を通じて「自分の命は自分で守る」力を高めていく。 ○「わが家のルール(災害時の対応)」や「生徒会だより」等の取組を通して、家庭でも防災について話し合う機会を多くつくっていく。</p>

業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	生徒と向き合う時間の確保	<p>【教職員アンケート】 ○「生徒と向き合う時間が確保されている」と感じている教職員の割合は76.9%[目標値:80%]である。 ・スクラップアンドビルドを常に考え、チーム両城で組織的な取組を引き続き推進していく必要がある。</p>	<p>○前例踏襲ではなく、ゼロベースで学校教育活動を見直し、改善策を行っていく。必要に応じ、学校運営協議会等でも協議し、地域や保護者に協力を求めていく。 ○教職員相互の日常的なOJTにより、教職員一人一人の資質・能力を向上させ、目指す生徒像を明らかにし、協働して教育活動を進める。</p>
		長時間勤務の削減	<p>【入退校記録】 ○時間外勤務が月45時間以内の教職員の割合は64.2%[目標値:100%]である。 ・特定の教職員に業務が偏らないようにするため、協働、参画の意識をより高める取組を推進していく必要がある。</p>	